



おおあし

第7号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/> 検索 》

被災 助け合い

緊急事態宣言下での運動会では、保護者の皆様のご理解ご協力を賜り、感染症予防および熱中症予防に配慮しながら無事終了いたしました。あらためまして感謝申し上げます。

さて、今夏も特に西日本では大雨による被害が相次ぎました。本県でも、一昨年の10月の台風では県内の各所で河川が氾濫し西部地域の川越や東松山では甚大な被害が出ました。当時、屈巢小に勤務していた私のところに市の防災担当者から体育館に避難所を開設するという連絡を受け、学校に駆けつけました。休日の夕方でした。避難してきた二組の家族が一晩体育館で過ごしました。他の小学校も避難所が開設されましたが、体育館だと浸水が不安だということで直上避難といって校舎の上階部を開放した学校もあったという話を後日聞きました。

2学期始業式の式辞で、9月1日「防災の日」についての話をしました。大正12年9月1日に起きた関東大震災のことや正しい避難の仕方等について確認しました。平成23年3月11日、東日本大震災がありました。当時私は市教育委員会勤務でした。箕田公民館で会議の準備をしていた私は、突然の強くしかも長い時間の揺れに恐怖を覚え、会議どころではないと判断し揺れがおさまると、停電で点灯しない信号機が続く国道を安全運転しながらどうにか市役所第二庁舎にたどり着きました。運転中は余震で道路が波打ち、車も跳ねているような感じがしました。床に散乱した書類を片づける間もなく上司の指示を受け、赤見台第二小学校へ行きました。電車がストップしてしまい北鴻巣駅にいた帰宅困難者が避難所となった赤二小の体育館に集まることになったのでその対応に当たるためです。停電で灯りも暖房もなく余震の続く体育館で寒さに耐えながら他の職員と、体育用のマットを敷いたり防災倉庫から毛布等を取り出して配ったり、翌朝には非常用の食料を配付したりしました。お年寄りや乳幼児がいなかったことは幸いでした。

では、関東大震災の時、鴻巣市は一体どういう状況だったのかが気になり「鴻巣市史 通史編3 近現代」を紐解いてみました。以下、引用です。

市域では、箕田村の被害が最も大きく、建物の半壊四棟、道路の陥没四カ所、橋梁の崩落八カ所であった。鴻巣町では二人が行方不明となった。大震災のその日の夕方から、早くも東京市の震災避難民が県境を越えて埼玉県に流入し始めた。埼玉県は避難経路の川口町、草加町、鴻巣町などの七カ所の救護所を設置し、飲食物の提供、無料宿泊、傷病者の治療などにあたった。鴻巣町救護所は九月二日から十一日までの十日間にわたって開設され、町会や在郷軍人分会などが救助活動を行い、救護者は約二万人に達したという。町民からは多くの現金・物資の寄付があった。多くの避難民が鴻巣町で保護を受け、市域の町村に一時滞在した。在郷軍人分会は、救護活動の他にも夜間警備、交通整理、朝鮮人の護送、暴行の防止などを行った。

※寄付 現金…一件につき75銭～20円（約80件）物資…白米 梅干し 沢庵 梨 甘藷 木炭 薪 手拭 空瓶等（約30件）金額総計 593円85銭 寄贈物品見積 約400円

情報が限られていた時代にも関わらず、二万人の救護というのは驚きです。2019年のラグビーワールドカップ日本大会開催時には東北地方に台風が上陸し、試合が中止になった外国のラグビー一選手が、浸水した家の中や道路の泥の掻き出しをしている様子が報道されました。困っている人たちに自分が何かできることがないかという思いは昔も今も日本も外国も変わりません。

学校でも防災教育を進めてまいります、ご家庭でも災害時の対応について話し合って家族で共通理解をしておくことが必要だと考えます。なお、避難所開設時には、市役所勤務の本地域に居住している職員が指揮を執ることになっています。

（校長 橋本 浩）